



10月度の御書

「法華初心成仏抄」

御文

とてもかくても法華經を強いて説き聞かすべし。信ぜん人は仏になるべし。謗ぜん者は毒鼓の縁となつて仏になるべきなり。いかにとしても、仏の種は法華經より外になきなり。

(御書新版697ページ、御書全集552ページ)

意味

とにかく法華經をあえて説き聞かせるべきです。信じる人は仏になるのです。悪口を言う人は「毒鼓の縁」(※)となつて仏になるのです。どちらにしても、仏になる種は法華經より他にないのです。

(※)「毒鼓」とは毒をぬった太鼓のこと。その音を聞いた人には毒が広がると言われていることをたとえて、法華經にふれさせれば、その人は将来必ず仏になることを示している。

友だちや家族の幸せを祈って

ライオン博士のキング君だよ！ みんなのところには、もう秋がやってきた？ ボクは赤や黄色の葉っぱを見つけると、ついつい集めてしまうんだ。よく見てみると、どの葉っぱも一つとして同じものはなくて、大切に思えてくるんだあ。

ボクたちも、一人として同じ人はいないよね。スポーツが好きな子、絵をかくのが好きな子、人を笑わせるのが上手な子や、人の良いところを見つけるのが上手な子。好きなことも、上手なことも、みんなそれぞれ、ちがってステキだ。

でも、もしかしたら自分とちがうタイプの人と出会った時には、とまどってしまうことがあるかもしれないね。“どうやって仲良くなったらいいんだろう？”って考えちゃうかもしれない。

日蓮大聖人は今回学ぶ御書で、どんな人ともつながり、友情を結べるのが、ボクたちが朝夕の勤行で読んでいる「法華經」のパワーだって語られているよ。

行動できるボクたちに成長しようと教えてくれているんだ。だから朝夕の勤行で勇気を出すことで、いろんな友だちにあいさつしたり、親切にしたりできるようになる。

そんなふうに、人のことを思って行動するボクたちの姿を見た友だちは、きっと「それって、いいね！」って思ってくれて、おたがいにはげまし、助け合える友だちになれると思うんだ。

時には勇気を出して話しかけたのに、分かりあえないこともあるかもしれない。そんな時は、友だちの心に呼びかけるように、お題目を唱えよう。ライオンキングの力が満タンになった君の声は、もっと強く優しい音色になって、友だちの心に届くはずだよ。

もしも、なやんでいる子がいて、自分には何もしてあげられない……って困った時には、やっぱりお題目を唱えよう。お題目は必ず通じるから。

池田先生はつづられているよ。「太陽がかがやくから、空に虹がかかるように、題目を唱えて心に太陽がのぼれば、友だちとの心のあいだに友情の虹がかかるのです」

この世界の一人も残らず幸せにしたい——それが日蓮大聖人の、そして池田先生の誓い。ボクたちも先生のように、友情の虹をたくさん、たくさんかがやかせようよ！

「法華經」は、自分や家族や友だちの幸せを祈って、